

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102732
法人名	医療法人 博愛会
事業所名	グループホーム しらさぎ
所在地	松山市会津町1-19
自己評価作成日	平成24年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 9 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のご希望に沿って、できるだけご自分のペースで生活していただけるよう努めている。 職員のチームワークがよく、利用者様のわずかな変化等に対しても情報交換を行い、対応している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、開設当初から「自分らしく」を理念に掲げて、母体の医療機関や同法人の老人保健施設、在宅介護サービスの事業所等と協力・連携しながらケアの実践に繋げている。事業所周辺は、住宅が多く、公園やJRの駅、大型スーパー、薬局、銀行があるため、地域住民との交流機会を多く持つことができる。地域の一員として自治会に加入し、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担うよう、取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム しらさぎ
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	西田 恵子
評価完了日	平成 24 年 8 月 11 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分らしく」を理念として掲げている。利用者の方が安心してその人らしく暮らせるよう、カンファレンスや日々の生活の中で折に触れ、話し合う機会を持ってケアにつなげている。</p> <p>(外部評価) 開設当初から「自分らしく」を理念に掲げ、利用者に合わせて個別に支援している。管理者は、理念を共有し実践につなげるよう、日々の業務の中で気がついたことがあればその場で指導し、申し送りノートを活用して職員全員で確認している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近くのスーパーやコンビニを日常的に利用している。ゴミ置き場の清掃当番は責任を持って行っている。近隣の幼稚園との交流がある。回覧板を回して頂いており、地域の行事等には出来るだけ参加するようにしている。</p> <p>(外部評価) 町内会の回覧板等で情報を得て、地域の一員として公園の清掃や市民大清掃等に参加している。ボランティアの学生を受け入れたり、地域の小学生と手紙を通じて交流を行うなど、利用者と地域のつながりを支援する取り組みに努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 個人の方から、「対応に困っている」との電話相談が時折あり、対応方法や利用できるサービス等についてできるだけわかりやすく説明するようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者様の日々の状況や施設の取り組みなどを報告し、ご意見・ご希望などを聞かせていただいている。運営会議の内容を職員で共有し、職員の質の向上を図るとともにサービス向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回開催し、利用の状況や行事報告のほか意見交換等を行っている。老人会や民生委員、家族、市関係者等多くの参加を得ている。	管理者と職員が意見を出し合って、会議の日程や内容を工夫する取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 研修や運営会議等を通じて協力関係を築いている。運営やサービス提供等について相談をしている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市担当者や地域包括支援センター職員の参加を得て、事業所の状況を報告し意見をもらっている。日頃から、管理者は市担当者に制度改正等について相談するなど良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) “身体拘束はしない”ことについて、全職員が共通認識をもって取り組んでいる。玄関の施錠については、施設の環境上危険が大きいと考えられるため、ご家族のご理解をいただいた上で、常時施錠している。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアを正しく理解し、自由な暮らしができるよう日中は玄関に施錠をしていない。利用者の見守りに不安がある時は、全職員で協力しながら安全確保に努めている。	計画的に身体拘束に関する研修や勉強会等を行い、日々の利用者への対応について繰り返し研鑽し、より良いサービスの提供に期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) あざ等がないか日常的に職員全員で注意を払っている。 言葉の暴力等についてもミーティングで話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前、後見人制度を利用されていた方が居り、職員間での理解はできている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 相談・見学の折に概略を説明。 入所申込時にあらためて詳細を説明し、理解・納得していただいた上で契約書を取り交わしている。 入所後も、疑問点などがあれば説明させていただくこととしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営会議・家族会・面会時等の機会にご意見・ご希望を聞かせていただいている。 頂いた情報は全職員で共有し、話し合っ改善に取り組んでいる。 苦情相談の外部機関があることについて、重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。 (外部評価) 利用者の高齢化や重度化に伴い、今後ますます家族との連携が必要と考え、去年は敬老会の行事に合わせて家族会を開催し意見交換を行った。運営推進会議には毎回家族の参加を得て意見をもらい、出された意見は運営に反映させている。	運営推進会議により多くの利用者や家族の参加を得られるよう、会議の日程や内容、参加の呼びかけ方法などを工夫し、さらに意見をもらえる機会を増やす取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 日々の申し送りおよび随時、意見や提案を聞いている。ミーティングの折に議題として挙げ、職員で話し合っている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、職員が意見や提案を出しやすい雰囲気づくりに努め、意見等を活かして限られた人員で役割分担しながら業務を進めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は職員の勤務状況や実績を把握している。希望休はできる限り取れるようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修案内等の資料が配布され、できるだけ研修に参加するよう勧められており、参加希望があれば優先的に勤務を組んでいる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会に参加し、同業者とのネットワークづくりに努めている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 施設見学や面談の機会に本人・ご家族より、困っていること・不安なこと・要望などを聞き取り、入所後できるだけスムーズに施設での生活になじんでいただけるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設見学や面談の機会に、困っていること・不安なこと・要望などを聞かせていただき、可能な限り対応している。 できないことに関しては、理由を説明しご理解いただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人の状況を確認し、本人やご家族の必要としている支援を見極めるように努めている。 グループホーム入所の対象でない場合や入所困難な場合は、適切と思われる他の施設やサービスなどの情報提供を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援しているという上から目線ではなく、同じラインに立つ人・同じ場所で生活する人という意識を持って関わっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 電話連絡や面会時に近況報告し、相談や意見交換を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には近況報告などを行うとともに、気兼ねなくゆっくり過ごしていただけるよう努めている。 (外部評価) 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所について家族などから情報を得て、馴染みの病院や美容室に通えるよう、家族の協力も得ながら支援している。毎回、病院で友人と待ち合わせている利用者には、職員が同行するなど関係継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 余暇の時間に一緒に歌を歌ったりゲームをしたり、利用者同士がかかわれる時間を作っている。 不穏な徴候を逸早く察知し、職員が間に入ったりしてトラブルにならないよう留意している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去の際は、退去後の生活がスムーズに行えるよう情報提供を行っている。 退去後も必要に応じ、相談に乗っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、表情や言動などから把握するよう努めている。ご家族からも情報提供して頂き、ご意見を伺っている。	
			(外部評価) 利用者との関わりの中で知り得た情報を、支援経過記録に書き込み職員で共有し、利用者本位のより良いサービス提供につながるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前のアセスメントおよび入居後の生活の中で折に触れ、ご本人・ご家族から伺っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の生活リズムやできること・できないこと・心身状態等について職員間で情報交換・意見交換して把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ご本人・ご家族から要望をお聞きし、介護計画に反映させている。ミーティングの折や利用者に変化があった場合は随時、担当職員を中心に話し合いを行い、変化に対応している。</p> <p>(外部評価) 介護計画については、職員全員に意見を聞き、利用者や家族の希望や意向も取り入れて同意を得て作成している。計画作成担当者と利用者の担当職員がモニタリングを行い、利用者の状態に応じて計画を変更している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別の経過記録に日々の状況を記録している。状況変化やケアの変更等は申し送り簿にも記入し、職員間で情報共有し実践につなげている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 個々の利用者の状況を把握し、できるだけご本人やご家族の要望に応じられるよう努めている。心身の状況に応じ必要時、かかりつけ医・専門医受診等の対応を行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 運営推進会議に市役所・社会福祉協議会・包括支援センターの職員の方に参加して頂き、情報交換や関係機関との協力関係を築いている。消防署の協力を得て、年2回防災訓練を実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入所前のかかりつけ医に継続して診療して頂くことが 可能であることを説明している。 施設のかかりつけ医の訪問診療が定期的であり、また 必要時には定期外の往診・受診が可能であるため、専 門医療以外は施設のかかりつけ医を選ぶ方が多い。 必要時、訪問歯科の利用もしている。</p> <p>(外部評価) 母体の医療機関や訪問看護事業所と連携し、常に利用 者の健康状態を把握して、利用者と家族が安心できる よう支援している。専門医の受診は家族にお願いし、 受診時に必要な情報は提供し、受診結果に関する情報 も家族と事業所で共有している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護師が勤務しており、密に連絡・報告・相談ができて いる。夜間および緊急時の連絡体制ができています。 訪問看護ステーションと医療連携をとっており、必要 時には支援を受けることができます。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時にはサマリーにより利用者の情報提供を行って いる。 入院後は面会や病院・家族からの情報提供を受け、経過 を把握して退院に備えている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入所時に、重度化した場合の対応についてご家族の思 いを伺うとともに、その決定が絶対なものではなく変 更可能であることをお伝えしている。 実際に状態に変化があった場合、あらためて相談させ ていただき、ご家族の意向に沿った対応ができるよう 努めている。</p> <p>(外部評価) 緊急時の対応マニュアルや看取りの指針等を整備して 、重度化や終末期の支援をしている。母体の医療機 関の担当医師や協力病院、訪問看護事業所、管理者 (看護師)、介護職員が連携を図りながらチームで支 援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期の支援について、介護職員に必要な研 修等を定期的に行ない、全職員で話し合う機会を増や すことが望ましい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべての職員が訓練を受けているわけではない。 看護師・かかりつけ医への連絡体制があり、状態変化があれば直ちに指示を受け、対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防署の方の指導のもと防火訓練を行っており防火設備・避難経路の点検も定期的に行っている。 夜間を想定した訓練が行えていないため実施を検討している。 (外部評価) 消防署の指導のもと防火訓練を実施し、夜間想定した避難訓練についても計画中である。地域の協力体制を得るため、運営推進会議や町内会を通じて避難訓練の案内等行うことを検討している。	いつ起きるかわからない災害の具体的な想定のもと、利用者も参加する訓練を繰り返し行うことが望まれる。地域住民にも参加を呼びかけて、災害時の協力体制を築く取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様に対する言葉遣いや態度には常々気を付けており、職員同士で注意しあったりミーティングでも取り上げ話し合っている。 (外部評価) 一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した声かけや対応をするよう努めている。個人情報の取扱いと管理については細心の注意を払っている。	プライバシー等について、事業所内外の定期的な研修に参加したり、職員がそれぞれの対応を振り返る機会を確保するなど、職員の理解を深める取組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉で表出されることが少ないため、表情やしぐさなど、全体の感じからくみ取るように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけ一人ひとりのペースに合わせ、それぞれの生活リズムやその日の状態に合わせて対応するよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に散髪・髭剃りを行なっている。近隣の理美容院に行かれる方は職員が付き添い、帰りは理美容院の方が付き添い送って下さっている。 更衣の際は、ご自分で選んでいただくようにしている。意思表示できない方は、好みの色・着心地のよさそうなものを職員が選んでいる	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 同法人の管理栄養士の立てた献立にそって調理しているが、好みや食べやすさなどを考え、調理方法や食材など変更することもある。 味見をしたりおやつを作ったり、手伝ってくださる方もいる。	
			(外部評価) できるだけ旬の食材を使って、2つのユニットで協力しあって調理している。利用者に合わせて食べやすいよう刻んだり、ミキサーにしたり対応している。利用者は、毎月のお弁当食や行事食、おやつ作りを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個別に食事量・体重・排泄等の状況を把握している。状況に応じて食事量や水分量を調整し、必要量を摂取できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、洗面所に誘導し、状態に応じて声かけ・見守り・介助を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 状況に応じ、個別にトイレ誘導やオムツ交換を行っている。 失禁した場合は自尊心を損なうことのないよう言動に注意し、気持ちよく対応している。	
			(外部評価) 一人ひとりの力や排泄の状況を把握し、座位がとれる利用者については、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。トイレのスペースは広く、車椅子の利用者も安心でき、職員も利用者のプライバシーを確保しながら介助することができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を促すため食材を工夫し、乳製品は毎日摂って頂いている。 排泄はできるだけ座位でできるよう支援している。 自然排便が困難な場合、主治医に相談し下剤服用し、排便状況に応じて下剤服薬量の調整も行なっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回の入浴日・時間は施設側で決めている。 体調や外出等の都合で曜日変更は適宜行い、週2回の入浴回数は確保している。 自立の方は入浴日・回数・時間に関わらず、希望の時に入浴して頂いている。	
			(外部評価) 入浴は週2回としているが、利用者の状態や希望に応じてシャワー浴も行っている。浴室や脱衣室は広く、脱衣室からトイレに行くことができる造りになっているため、利用者のプライバシーが確保できる。利用者が安全に入浴できるよう、新たな福祉用具の購入を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活習慣やその時の状況により入眠時間は様々である。 日中の休息も自由にとられている。 移動等に見守りや介助が必要な方には、ご本人の希望を確認して援助している。 意思表示できない方には、疲労度などを把握し、適宜休息をとって頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別記録に服薬量・用法・副作用などの説明書をファイルし、いつでも確認できるようにしている。 変更のあった場合には、個別記録・日誌・申し送り簿に記録し、情報共有している。 服薬時は、個別に手渡し、服薬確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみや食事の味見・カーテンの開け閉め等、できることを手伝って頂いている。 余暇には、体操・歌を歌う・ボール遊びなど、みんなで楽しめることに取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 頻度は少ないが、近隣への散歩・買い物等、外出の機会を設けている。 ご家族の協力を得て頻回に外出される方もある。 (外部評価) 1階テラスは広く庭には家庭菜園もあり、季節を感じながら毎日外気浴ができています。日常的に利用者と一緒に、近所のスーパーや薬局に買い物に出かけている。地域の公園での花見や祭り、同法人の老人保健施設での夏祭りなど工夫しながら外出支援している。	利用者の生活を活性化させるため、毎月計画的に外出できるように、同法人の老人保健施設と連携したり、家族の協力を得ながら外出の機会を増やす取組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる方以外はお金を持たず、ご家族管理となっている。 食材の買い物の折に、好きなおやつを選んでいただいたりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持って利用者様自ら電話される方がいる。 家族に電話して要件を伝えてほしいと希望される方には替わりにお伝えしている。 手紙のやり取りをお手伝いすることがある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 庭に咲いている季節の花をリビングや玄関先に飾るようにしている。 温度・湿度調節をこまめに行っており、カーテンで採光調節している。</p> <p>(外部評価) 歩行中の転倒など事故がないように、共用空間には物を置かない環境づくりに努めている。利用者は、日中は居間で思い思いの場所でくつろいで過ごしている。テラスやベランダは陽あたりがよく家庭菜園もあり、季節を感じて過ごす場所となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) テレビの前のソファで好きな番組を観たり、テーブルで新聞を読んだり、思い思いに過ごされている。移動介助が必要な方には、それぞれ確認をして好きな場所を選んでいただいている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所時の面談の折、使い慣れた家具などの持ち込みをお願いしている。 箆笥や椅子の配置など、ご本人・御家族にお任せしている。</p> <p>(外部評価) 居室は、ユニットごとに和室や夫婦等の二人で使用できる部屋がある。利用者はそれぞれの希望や状態に合わせて使用している。</p>	家族の協力を得ながら、その人らしい居心地のよい居室づくりに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室には表札を掛け、トイレは大きく表示してわかりやすくしている。 トイレ・廊下・浴室には持ちやすい位置に手すりを設置している。 移動の邪魔にならないよう、歩行される場所には物を置かないようにしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102732
法人名	医療法人 博愛会
事業所名	グループホーム しらさぎ
所在地	松山市会津町1-19
自己評価作成日	平成24年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 9 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様のご希望に沿って、できるだけご自分のペースで生活していただけるよう努めている。 職員のチームワークがよく、利用者様のわずかな変化等に対しても情報交換を行い、対応している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、開設当初から「自分らしく」を理念に掲げて、母体の医療機関や同法人の老人保健施設、在宅介護サービスの事業所等と協力・連携しながらケアの実践に繋げている。事業所周辺は、住宅が多く、公園やJRの駅、大型スーパー、薬局、銀行があるため、地域住民との交流機会を多く持つことができる。地域の一員として自治会に加入し、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担うよう、取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム しらさぎ

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 西田 恵子

評価完了日 平成24年 8月 11日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分らしく」を理念として掲げている。利用者の方が安心してその人らしく暮らせるよう、カンファレンスや日々の生活の中で折に触れ、話し合う機会を持ってケアにつなげている。</p> <p>(外部評価) 開設当初から「自分らしく」を理念に掲げ、利用者に合わせて個別に支援している。管理者は、理念を共有し実践につなげるよう、日々の業務の中で気がついたことがあればその場で指導し、申し送りノートを活用して職員全員で確認している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近くのスーパーやコンビニを日常的に利用している。ゴミ置き場の清掃当番は責任を持って行っている。近隣の幼稚園との交流がある。回覧板を回して頂いており、地域の行事等には出来るだけ参加するようにしている。</p> <p>(外部評価) 町内会の回覧板等で情報を得て、地域の一員として公園の清掃や市民大清掃等に参加している。ボランティアの学生を受け入れたり、地域の小学生と手紙を通じて交流を行うなど、利用者や地域とのつながりを支援する取り組みに努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 個人の方から、「対応に困っている」との電話相談が時折あり、対応方法や利用できるサービス等についてできるだけわかりやすく説明するようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者様の日々の状況や施設の取り組みなどを報告し、ご意見・ご希望などを聞かせていただいている。運営会議の内容を職員で共有し、職員の質の向上を図るとともにサービス向上に努めている。	管理者と職員が意見を出し合って、会議の日程や内容を工夫する取組みに期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回開催し、利用の状況や行事報告のほか意見交換等を行っている。老人会や民生委員、家族、市関係者等多くの参加を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 研修や運営会議等を通じて協力関係を築いている。運営やサービス提供等について相談をしている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市担当者や地域包括支援センター職員の参加を得て、事業所の状況を報告し意見をもらっている。日頃から、管理者は市担当者に制度改正等について相談するなど良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) “身体拘束はしない”ことについて、全職員が共通認識をもって取り組んでいる。玄関の施錠については、施設の環境上危険が大きいと考えられるため、ご家族のご理解をいただいた上で、常時施錠している。	計画的に身体拘束に関する研修や勉強会等を行い、日々の利用者への対応について繰り返し研鑽し、より良いサービスの提供に期待したい。
			(外部評価) 身体拘束をしないケアを正しく理解し、自由な暮らしができるよう日中は玄関に施錠をしていない。利用者の見守りに不安がある時は、全職員で協力しながら安全確保に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) あざ等がないか日常的に職員全員で注意を払っている。 言葉の暴力等についてもミーティングで話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前、後見人制度を利用されていた方が居り、職員間での理解はできている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 相談・見学の折に概略を説明。 入所申込時にあらためて詳細を説明し、理解・納得していただいた上で契約書を取り交わしている。 入所後も、疑問点などがあれば説明させていただくこととしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営会議・家族会・面会時等の機会にご意見・ご希望を聞かせていただいている。 頂いた情報は全職員で共有し、話し合って改善に取り組んでいる。 苦情相談の外部機関があることについて、重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。 (外部評価) 利用者の高齢化や重度化に伴い、今後ますます家族との連携が必要と考え、去年は敬老会の行事に合わせて家族会を開催し意見交換を行った。運営推進会議には毎回家族の参加を得て意見をもらい、出された意見は運営に反映させている。	運営推進会議により多くの利用者や家族の参加を得られるよう、会議の日程や内容、参加の呼びかけ方法などを工夫し、さらに意見をもらえる機会を増やす取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 日々の申し送りおよび随時、意見や提案を聞いている。ミーティングの折に議題として挙げ、職員で話し合っている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、職員が意見や提案を出しやすい雰囲気づくりに努め、意見等を活かして限られた人員で役割分担しながら業務を進めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は職員の勤務状況や実績を把握している。希望休はできる限り取れるようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修案内等の資料が配布され、できるだけ研修に参加するよう勧められており、参加希望があれば優先的に勤務を組んでいる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会に参加し、同業者とのネットワークづくりに努めている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 施設見学や面談の機会に本人・ご家族より、困っていること・不安なこと・要望などを聞き取り、入所後できるだけスムーズに施設での生活になじんでいただけるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設見学や面談の機会に、困っていること・不安なこと・要望などを聞かせていただき、可能な限り対応している。 できないことに関しては、理由を説明しご理解いただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人の状況を確認し、本人やご家族の必要としている支援を見極めるように努めている。 グループホーム入所の対象でない場合や入所困難な場合は、適切と思われる他の施設やサービスなどの情報提供を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援しているという上から目線ではなく、同じラインに立つ人・同じ場所で生活する人という意識を持って関わっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 電話連絡や面会時に近況報告し、相談や意見交換を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には近況報告などを行うとともに、気兼ねなくゆっくり過ごしていただけるよう努めている。 (外部評価) 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所について家族などから情報を得て、馴染みの病院や美容室に通えるよう、家族の協力も得ながら支援している。毎回、病院で友人と待ち合わせている利用者には、職員が同行するなど関係継続に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 余暇の時間に一緒に歌を歌ったりゲームをしたり、利用者同士がかかわれる時間を作っている。 不穏な徴候を逸早く察知し、職員が間に入ったりしてトラブルにならないよう留意している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去の際は、退去後の生活がスムーズに行えるよう情報提供を行っている。 退去後も必要に応じ、相談に乗っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、表情や言動などから把握するよう努めている。ご家族からも情報提供して頂き、ご意見を伺っている。	
			(外部評価) 利用者との関わりの中で知り得た情報を、支援経過記録に書き込み職員で共有し、利用者本位のより良いサービス提供につながるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前のアセスメントおよび入居後の生活の中で折に触れ、ご本人・ご家族から伺っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の生活リズムやできること・できないこと・心身状態等について職員間で情報交換・意見交換して把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ご本人・ご家族から要望をお聞きし、介護計画に反映させている。ミーティングの折や利用者に変化があった場合は随時、担当職員を中心に話し合いを行い、変化に対応している。</p> <p>(外部評価) 介護計画については、職員全員に意見を聞き、利用者や家族の希望や意向も取り入れて同意を得て作成している。計画作成担当者と利用者の担当職員がモニタリングを行い、利用者の状態に応じて計画を変更している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別の経過記録に日々の状況を記録している。状況変化やケアの変更等は申し送り簿にも記入し、職員間で情報共有し実践につなげている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 個々の利用者の状況を把握し、できるだけご本人やご家族の要望に応じられるよう努めている。心身の状況に応じ必要時、かかりつけ医・専門医受診等の対応を行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 運営推進会議に市役所・社会福祉協議会・包括支援センターの職員の方に参加して頂き、情報交換や関係機関との協力関係を築いている。消防署の協力を得て、年2回防災訓練を実施している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所前のかかりつけ医に継続して診療して頂くことが 可能であることを説明している。 施設のかかりつけ医の訪問診療が定期的であり、また 必要時には定期外の往診・受診が可能であるため、専 門医療以外は施設のかかりつけ医を選ぶ方が多い。 必要時、訪問歯科の利用もしている。	
			(外部評価) 母体の医療機関や訪問看護事業所と連携し、常に利用 者の健康状態を把握して、利用者と家族が安心でき るよう支援している。専門医の受診は家族にお願いし、 受診時に必要な情報は提供し、受診結果に関する情報 も家族と事業所で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師が勤務しており、密に連絡・報告・相談ができ ている。夜間および緊急時の連絡体制ができてい る。訪問看護ステーションと医療連携をとっており、必要 時には支援を受けることができる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはサマリーにより利用者の情報提供を行って いる。 入院後は面会や病院・家族からの情報提供を受け、経過 を把握して退院に備えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に、重度化した場合の対応についてご家族の思 いを伺うとともに、その決定が絶対なものではなく変更 可能であることをお伝えしている。 実際に状態に変化があった場合、あらためて相談させ ていただき、ご家族の意向に沿った対応ができるよう 努めている。	重度化や終末期の支援について、介護職員に必要な研 修等を定期的に行ない、全職員で話し合う機会を増や すことが望ましい。
			(外部評価) 緊急時の対応マニュアルや看取りの指針等を整備し て、重度化や終末期の支援をしている。母体の医療機 関の担当医師や協力病院、訪問看護事業所、管理者 (看護師)、介護職員が連携を図りながらチームで支 援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべての職員が訓練を受けているわけではない。 看護師・かかりつけ医への連絡体制があり、状態変化があれば直ちに指示を受け、対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防署の方の指導のもと防火訓練を行っており防火設備・避難経路の点検も定期的に行っている。 夜間を想定した訓練が行えていないため実施を検討している。 (外部評価) 消防署の指導のもと防火訓練を実施し、夜間想定した避難訓練についても計画中である。地域の協力体制を得るため、運営推進会議や町内会を通じて避難訓練の案内等行うことを検討している。	いつ起きるかわからない災害の具体的な想定のもと、利用者も参加する訓練を繰り返し行うことが望まれる。地域住民にも参加を呼びかけて、災害時の協力体制を築く取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様に対する言葉遣いや態度には常々気を付けており、職員同士で注意しあったりミーティングでも取り上げ話し合っている。 (外部評価) 一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した声かけや対応をするよう努めている。個人情報の取扱いと管理については細心の注意を払っている。	プライバシー等について、事業所内外の定期的な研修に参加したり、職員がそれぞれの対応を振り返る機会を確保するなど、職員の理解を深める取組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉で表出されることが少ないため、表情やしぐさなど、全体の感じからくみ取るように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけ一人ひとりのペースに合わせ、それぞれの生活リズムやその日の状態に合わせて対応するよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に散髪・髭剃りを行なっている。近隣の理美容院に行かれる方は職員が付き添い、帰りは理美容院の方が付き添い送って下さっている。 更衣の際は、ご自分で選んでいただくようにしている。意思表示できない方は、好みの色・着心地のよさそうなものを職員が選んでいる	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 同法人の管理栄養士の立てた献立にそって調理しているが、好みや食べやすさなどを考え、調理方法や食材など変更することもある。 味見をしたりおやつを作ったり、手伝ってくださる方もいる。	
			(外部評価) できるだけ旬の食材を使って、2つのユニットで協力しあって調理している。利用者に合わせて食べやすいよう刻んだり、ミキサーにしたり対応している。利用者は、毎月のお弁当食や行事食、おやつ作りを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個別に食事量・体重・排泄等の状況を把握している。状況に応じて食事量や水分量を調整し、必要量を摂取できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、洗面所に誘導し、状態に応じて声かけ・見守り・介助を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 状況に応じ、個別にトイレ誘導やオムツ交換を行っている。 失禁した場合は自尊心を損なうことのないよう言動に注意し、気持ちよく対応している。	
			(外部評価) 一人ひとりの力や排泄の状況を把握し、座位がとれる利用者については、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。トイレのスペースは広く、車椅子の利用者も安心でき、職員も利用者のプライバシーを確保しながら介助することができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を促すため食材を工夫し、乳製品は毎日摂って頂いている。 排泄はできるだけ座位でできるように支援している。 自然排便が困難な場合、主治医に相談し下剤服用し排便状況に応じ、主治医許可にて下剤服薬量を調節している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回の入浴日・時間は施設側で決めている。 体調や外出等の都合で曜日変更は適宜行い、週2回の入浴回数は確保している。 自立の方は入浴日・回数・時間に関わらず、希望の時に入浴して頂いている。	
			(外部評価) 入浴は週2回としているが、利用者の状態や希望に応じてシャワー浴も行っている。浴室や脱衣室は広く、脱衣室からトイレに行くことができる造りになっているため、利用者のプライバシーが確保できる。利用者が安全に入浴できるよう、新たな福祉用具の購入を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活習慣やその時の状況により入眠時間は様々である。 日中の休息も自由にとられている。 移動等に見守りや介助が必要な方には、ご本人の希望を確認して援助している。 意思表示できない方には、疲労度などを把握し、適宜休息をとって頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別記録に服薬量・用法・副作用などの説明書をファイルし、いつでも確認できるようにしている。 変更があった場合には、個別記録・日誌・申し送り簿に記録し、情報共有している。 服薬時は、個別に手渡し、服薬確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみや食事の味見・カーテンの開け閉め等、できることを手伝って頂いている。 余暇には、体操・歌を歌う・ボール遊びなど、みんなで楽しめることに取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 頻度は少ないが、近隣への散歩・買い物等、外出の機会を設けている。 ご家族の協力を得て頻回に外出される方もある。 (外部評価) 1階テラスは広く庭には家庭菜園もあり、季節を感じながら毎日外気浴ができています。日常的に利用者と一緒に、近所のスーパーや薬局に買い物に出かけている。地域の公園での花見や祭り、同法人の老人保健施設での夏祭りなど工夫しながら外出支援している。	利用者の生活を活性化させるため、毎月計画的に外出できるように、同法人の老人保健施設と連携したり、家族の協力を得ながら外出の機会を増やす取組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる方以外はお金を持たず、ご家族管理となっている。 食材の買い物の折に、好きなおやつを選んでいただいたりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持って利用者様自ら電話される方がいる。 家族に電話して要件を伝えてほしいと希望される方には替わりにお伝えしている。 手紙のやり取りをお手伝いすることがある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 庭に咲いている季節の花をリビングや玄関先に飾るようにしている。 温度・湿度調節をこまめに行っており、カーテンで採光調節している。</p> <p>(外部評価) 歩行中の転倒など事故がないように、共用空間には物を置かない環境づくりに努めている。利用者は、日中は居間で思い思いの場所でくつろいで過ごしている。テラスやベランダは陽あたりがよく家庭菜園もあり、季節を感じて過ごす場所となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) テレビの前のソファで好きな番組を観たり、テーブルで新聞を読んだり、思い思いに過ごされている。移動介助が必要な方には、それぞれ確認をして好きな場所を選んでいただいている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所時の面談の折、使い慣れた家具などの持ち込みをお願いしている。 箆笥や椅子の配置など、ご本人・御家族にお任せしている。</p> <p>(外部評価) 居室は、ユニットごとに和室や夫婦等の二人で使用できる部屋がある。利用者はそれぞれの希望や状態に合わせて使用している。</p>	家族の協力を得ながら、その人らしい居心地のよい居室づくりに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室には表札を掛け、トイレは大きく表示してわかりやすくしている。 トイレ・廊下・浴室には持ちやすい位置に手すりを設置している。 移動の邪魔にならないよう、歩行される場所には物を置かないようにしている。</p>	